

上三川町集中改革プラン(第3期) 令和元年度実施状況等報告書

令和2年8月

上三川町

集中改革プラン（第3期）令和元年度実施状況について

1 はじめに

上三川町集中改革プラン(第3期)は、平成28年度から令和2年度(5ヵ年)までを計画期間とし、上三川町行政改革大綱(第5期)に掲げた4つの「シンカ」をもとに、「取組事項」(特に重点的に取り組むべき項目)の「取組の内容」や「実施年度(5ヵ年の計画)」等を定めています。

2 進捗状況の基準について

上三川町集中改革プラン(第3期)の取組内容の進捗状況を客観的に示すため、集中プランの最終年度である令和2年度に目標に対して、実績がどの程度進捗しているかを、下の5段階で表しております。

基準:5段階 (単年度)		A	目標以上に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 実績値から計画期間より早く目標値達成が見込める 事業内容が目標達成に非常に効果が認められる
		B	目標達成に向けて順調に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 実績値から計画期間内の目標値達成が見込める 事業内容が目標達成に効果が認められる
		C	やや遅れているが概ね順調に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 実績値から計画期間内の目標値達成に向けて対策が必要と判断される 目標達成のために、事業内容に工夫が必要
		D	遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい	<ul style="list-style-type: none"> 実績値から計画期間内の目標値達成が難しいと判断される 目標達成のために、事業内容の見直し・改善が必要
		E	未着手	<ul style="list-style-type: none"> 未着手

3 令和元年度の実施状況について

達成度別の取組数

令和元年度取組みは、32取組中6取組で「目標以上に進んでいる」、14取組で「順調に進んでいる」、8取組で「概ね順調に進んでいる」、4取組で「遅れが生じている」という進捗状況でした。

基準:5段階	取組数	全体に占める割合(32取組中)
A 目標以上に進んでいる	6	18.8%
B 目標達成に向けて順調に進んでいる	14	43.8%
C やや遅れているが概ね順調に進んでいる	8	25.0%
D 遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい	4	12.5%
E 未着手	0	0.0%

集中改革プラン（第3期）令和元年度実施状況一覧

シンカ	基本的方向	No.	取組内容	数値目標	基準値 (H27)	目標値 (R2)	実績値 (R1)	進捗 状況
I 真価	職員意識の向上と人材育成	1	職員提案制度の推進	単年度の提案数（各課1提案）	6件	15件	42件	B
		2	行政評価制度の推進	実施計画事業の評価	-	1回	1回	B
		3	職員研修の実施（県、アカデミー、芳賀広域、町）	階層別研修（主事・技師、主査）の延べ受講者数	-	114人	71人	B
		4	職場内研修（OJT研修）の実施：職場内での日常の教育指導の充実	削除 （ルール・執務能力ほか）	-	-	-	-
		5	人事評価制度の導入	削除 （評価制）	-	-	-	-
	組織機構の見直し・組織力の強化	6	適正な定員管理	平成28年度からの「定員適正化計画」に基づきながら、各年度の適正人員を検討し採用計画を立てる。	216人	219人	215人	B
		7	人事交流の実施	削除 （栃木県への事務研修継続・県との職員の受入継続）	-	-	-	-
		8	組織機構、事務分掌の見直し	組織機構に関するヒアリングの実施	-	1件	1件	B
		9	横断的ミーティングの活用（オフサイトミーティング）	横断的ミーティング開催回数	-	7回	8回	A
II 芯下	財政の健全化	10	給与水準の適正化の維持	削除 （人事院勧告に基づく給与改定の実施・人事評価制度実施による給与への反映）	-	-	-	-
		11	経常収支比率の改善	経常収支比率	91.1%	90.0% 未満	80.5% (R1決算)	B
		12	可燃ごみ及び資源物への分別と生ごみの水切りの周知・徹底	家庭系ごみ年間量 ※燃やせるごみのみ	5,901 t/年	5,707 t/年	5,879 t/年	B
		13	水道料金等の支払いにおける口座振替利用の促進	口座振替利用率	81.7%	85.0%	80.4%	D
		14	農業集落排水の接続率の向上	農業集落排水の接続率	68.1%	80%	76.4%	C
		15	水道普及率の向上	水道普及率	86.6%	91%	89.6%	B
	歳入の確保・施設の有効活用	16	現年度課税分の年度内完納	徴収率（町民税 外7税）	98.6%	98.9%	99.0%	B
		17	個人住民税未申告者の減少	当初未申告者数に対する催告等により申告を行った者の割合	76%	90%	84.5%	C
		18	課税客体の的確な把握と適正な課税	調査・巡回率（1,085路線）	23.2%	100%	92.0%	B
		19	町営住宅家賃及び駐車場使用料の徴収率向上を図るための改善	翌年度の5月31日（出納閉鎖まで）の家賃及び、駐車場使用料の徴収率	96.4%	98%	90.7%	D
		20	広報かみのかわ等広告掲載事業の推進	広告収入の増加	-	665,000円	805,000円	A
		21	行政財産の見直し	行政財産の見直し（長期的な目標としては、0件が目標）	21件	-	22件	C
		22	公用車の効率的な更新	配置車両台数	33台 (内)軽自動車6台	33台 (内)軽自動車8台	33台 (内)軽自動車9台	B
23		橋梁長寿命化計画に基づく維持管理	修繕橋梁数	6橋	7橋	6.5橋	B	

集中改革プラン（第3期）令和元年度実施状況一覧

シンカ	基本的方向	No.	取組内容	数値目標	基準値 (H27)	目標値 (R2)	実績値 (R1)	進捗 状況
Ⅲ伸化	今ある価値 の伸化	24	サンフラワー祭りの活性化	サンフラワー祭り来場者数	17,000 人	22,000 人	22,000 人	A
		25	町民スポーツ・レクリエーション祭の活性化	町民スポーツ・レクリエーション祭の来場者数	2,100 人	3,200 人	台風のため 中止	C
		26	かみたんメールへの関心の増加及び適切な登録方法の紹介	かみたんメールの登録者数	2,851 人	5,200 人	5,298 人	A
		27	農産物及び加工品等のブランド化	新商品の開発(累計)	2件	10件	6件	C
		28	中核的担い手農家等へ農地の利用集積	利用権設定面積	452ha	600ha	605ha	A
		29	デマンド交通の利用促進	平日3台運行 1日1台当たりの利用者数	26.9人 (2台)	27.5人	20.8人	C
		30	健康マイレージ事業の参加促進	健康マイレージの参加者数	—	900人	552人	C
Ⅳ深化	町民・地域 との協働	31	ボランティアセンターの設置	ボランティア充足率	—	99%	95.8%	B
		32	自主防災組織の設立推進	自主防災組織数	0	45組織	23組織	D
		33	コミュニティ活動の推進	コミュニティ推進協議会組織数及び構成区域の見直しを行う。 コミュニティ未組織地域の組織化を促進する。	6組織	7組織 (構成区域の見直し)	6組織	D
		34	いきいきプラザ利用者提案制度の推進	利用者提案による運営方法の採用	—	4件	0件	C
		35	女性委員登用率の向上の推進	審議委員会等への女性の積極的な登用	33.7%	35%	36.0%	A
	官民協働	36	大山保育所の民営化	削除	—	—	—	—
自治体との 連携	37	地域間交流活動の推進	地域間交流事業参加者数	100人	300人	190人	B	
A：目標以上に進んでいる								6
B：目標達成に向けて順調に進んでいる								14
C：やや遅れているが、概ね順調に進んでいる								8
D：遅れが生じており、このままでは目標達成は難しい								4
E：未着手								0

目 次

シムカ	基本的方向	取組事項	No.	取組内容	進捗状況 評価	
I 真価	職員意識の向上と 人材育成	事務事業の整理・合理化	1	職員提案制度の推進	B	
			2	行政評価制度の推進	B	
		職員研修の充実	3	職員研修の実施（県、アカデミー、芳賀広域、町）	B	
			4	職場内研修（OJT研修）の実施；職場内での日常の教育指導の充実	—	
			5	人事評価制度の導入	—	
	組織機構の見直し・組織力の強化	定員管理の適正化	6	適正な定員管理	B	
			7	人事交流の実施	—	
		最適な組織機構の編成	8	組織機構、事務分掌の見直し	B	
		業務改善の推進	9	横断的ミーティングの活用（オフサイトミーティング）	A	
II 芯下	財政の健全化	職員給与の適正化	10	給与水準の適正化の維持	—	
			11	経常収支比率の改善	B	
		経費の節減合理化	12	可燃ごみ及び資源物への分別と生ごみの水切りの周知・徹底	B	
			13	水道料金等の支払いにおける口座振替利用の促進	D	
			14	農業集落排水の接続率の向上	C	
			15	水道普及率の向上	B	
	16		現年度課税分の年度内完納	B		
	歳入の確保・施設の 有効活用	町税等の徴収率の向上	17	個人住民税未申告者の減少	C	
			18	課税客体の的確な把握と適正な課税	B	
			19	町営住宅家賃及び駐車場使用料の徴収率向上を図るための改善	D	
			20	広報かみのかわ等広告掲載事業の推進	A	
		広告収入の増加	21	行政財産の見直し	C	
		財産の有効活用	22	公用車の効率的な更新	B	
			公共施設マネジメントの推進	23	橋梁長寿命化計画に基づく維持管理	B
		III 伸化	今ある価値の伸化	イベントの活性化	24	サンフラワー祭りの活性化
25					町民スポーツ・レクリエーション祭の活性化	C
地域発信力の強化	26			かみたんメールへの関心の増加及び適切な登録方法の紹介	A	
	27			農産物及び加工品等のブランド化	C	
	28			中核的担い手農家等へ農地の利用集積	A	
生活の向上	29		デマンド交通の利用促進	C		
	30		健康マイレージ事業の参加促進	C		
IV 深化	町民・地域との協働	町民活動・ボランティアの育成支援	31	ボランティアセンターの設置	B	
			32	自主防災組織の設立推進	D	
		地域防災力の強化	33	コミュニティ活動の推進	D	
			34	いきいきプラザ利用者提案制度の推進	C	
			35	女性委員登用率の向上の推進	A	
	官民協働	36	大山保育所の民営化	—		
	自治体との連携	37	地域間交流活動の推進	B		

A：目標以上に進んでいる	6
B：目標達成に向けて順調に進んでいる	14
C：やや遅れているが、概ね順調に進んでいる	8
D：遅れが生じており、このままでは目標達成は難しい	4
E：未着手	0

P (計画)	主要施策(シカ)		真 価	基本的方向		職員意識の向上と人材育成																							
	取組事項		事務事業の整理・合理化		取組区分		第2期プランから継続																						
	現状(当初)と課題		職員提案は、通年にわたり随時募集受付しているが、提案の提出数が少ない状況にある。いかに提案提出へと導き出すかが課題である。																										
	取組の内容		① 職員提案制度の推進																										
			提案しやすい職場環境づくりに努めるとともに、職員へ広く周知するなど、より多くの提案によって事務事業の改善や合理化を図る。																										
	取組スケジュール			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																					
	職員提案の募集(通年)			実施																									
	職員への周知(周知方法改善)			実施																									
	職員提案制度要綱の見直し検討			検討																									
	事業実施した場合、想定できる効果		業務見直しにより事務の合理化が図られる。町民サービスの更なる向上。行政課題の解決促進。																										
D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)			取組(何を)																							
			全職員対象			職員提案の募集を実施																							
C (評価)	自己評価	進捗状況	B: 目標達成に向けて順調に進捗している。																										
		良かった点	職場内の係単位において、企画及び提案を実施することができた。																										
		悪かった点	提案内容を実現性の有無を問わなかったため、実現した提案がなかった。																										
A (改善)	実施予定・変更点など		職員提案を実施し、実現性のある内容へと移行する。																										
P / C	数値目標・実績		項目名	単位		<table border="1"> <caption>職員提案数推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>7</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>9</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>11</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>13</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>15</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			年度	目標	実績	計画当初	6	6	H28	7	20	H29	9	5	H30	11	42	R1	13	42	R2	15	-
			年度	目標	実績																								
			計画当初	6	6																								
			H28	7	20																								
H29	9	5																											
H30	11	42																											
R1	13	42																											
R2	15	-																											
単年度の提案数(各課1提案)	件																												
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)																											
6 (平成26年度実績)	15	42																											

P (計画)	主要施策(シカ)		真 価	基本的方向	職員意識の向上と人材育成		
	取組事項		事務事業の整理・合理化		取組区分	第2期プランから継続	
	現状(当初)と課題		実施計画の全事業を対象に評価を行っている。 行政評価によるPDCAサイクルの更なる活用が必要となっている。				
	取組の内容		② 行政評価制度の推進 評価制度を取り入れることで、限られた財源を有効に活用し、総合計画の基本計画に位置づけられた目標を実現するため、PDCAサイクルにより事務事業を効率的かつ効果的に推進する。 また、評価対象事業及び評価方法についても検討・改善していく。				
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	行政評価の実施		実施				
	評価対象事業及び評価方法の検討・見直し		検討	見直し(実施)			
	事業実施した場合、想定できる効果		計画(P)→実行(D)→評価(C)→改善(A)の作業を繰り返し行うことにより、効率的・効果的な行政運営が行える。				
D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)	取組(何を)			
			総合計画実施計画の事業 (主に200万円以上の事業)	財務会計システムを使った行政評価を実施した。			
C (評価)	自己評価	進捗状況	B: 目標達成に向けて順調に進捗している。				
		良かった点	財務会計システムにより、事業目標と結果の確認だけでなく、町が事業を実施する必要性についても確認できるようになったことから、事業の在り方を含めた検討ができるようになった。				
		悪かった点	評価の内容が、行政改革やまち・ひと・しごと創生総合戦略における事業評価と重複しているものが見受けられる。				
(改善) A	実施予定・変更点など		行政評価とそれ以外の事業評価で、評価が重複しているものがあるため、今後の事業評価の在り方について改めて検討していく。				
P / C	数値目標・実績		項目名	単位			
			実施計画事業の評価	回			
	計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)				
	—	1	1				

P (計画)	主要施策(シムカ)		真 価	基本的方向		職員意識の向上と人材育成			
	取組事項		職員研修の充実		取組区分		新規(取組再設定)		
	現状(当初)と課題		人材育成基本方針に基づき、町における全体研修や芳賀広域・県市町村振興協会・市町村アカデミーなどの研修に職員を参加させている。多くの職員が研修に参加できる機会を与えることが必要。						
	取組の内容		① 職員研修の実施 幅広い行政能力や高度な専門知識の修得などを目的に、各種研修への派遣や町独自の研修会を実施する。						
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度		
	研修計画策定・実施		実施	実施	実施	実施	実施		
	町独自の全体研修の実施(毎年度)		実施						
	芳賀広域・県市町村振興協会職員派遣		実施						
	市町村アカデミー職員派遣		実施						
	専門研修派遣推進		実施						
事業実施した場合、想定できる効果		職員の資質を向上させることにより、複雑多様化する行政サービスに対応でき、もって組織の目標達成に貢献できる。							
D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)		取組(何を)				
			全職員		各種研修を受講する機会を提供(全体研修・専門研修派遣等)				
C (評価)	自己評価	進捗状況	B: 目標達成に向けて順調に進捗している。						
		良かった点	管理職、係長、主査、主事の4階層別研修を実施できた。						
		悪かった点	時期等の調整に時間を要した。						
(改善) A	実施予定・変更点など		管理職研修も継続実施し、4階層すべてで研修を実施する。研修効果を考え、1階層あたり20名程度を受講者としているので、未受講者にも同様の研修を受講させる。						
P / C	数値目標・実績		項目名	単位	120 100 80 60 40 20 0				
			階層別研修(主事・技師、主査)の延べ受講者数	人	0 0 20 38 76 114				
	計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)	0 0 20 61 71					
	-	114	71	計画当初 H28 H29 H30 R1 R2					

削除

P (計画)	策(シンカ)	真 価	基本的方向		職員意識の向上と人材育成		
	事 項	職員研修の充実		取組区分		新規	
	現状(当初)と課題	平成27年度より、新規採用職員の育成のため、配属された各職場において指導員を選任し指導する「職場内研修」を実施している。指導効果が未達成の職員については、引続き指導することが必要である。					
	取組の内容	② 職場内研修(OJT研修)の実施:職場内での日常の教育指導の充実					
		新規採用職員職場研修実施要領に基づき、新規採用職員や若手職員に対し、仕事の進め方や接遇など職務遂行に必要とされる事項について職場内教育を積極的に推進する。					
	数値目標・実施期限等	項目名	単 位	当初(平成28年度)		目標(平成32年度)	
		職場内研修の実施率 (職場ルール・マナー・接遇・仕事の進め方・執務能力ほか)	%	(研修目標達成者) 100		(研修目標達成者) 100	
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	新規採用職員の職場内研修実施・効果確認		実 施				
	研修実施の見直し(検証)		検 証				
事業実施した場合、想定できる効果	新規採用職員の職務遂行能力の早期習得と指導者の指導能力向上により、個人の労働意欲向上や組織全体の意識向上に繋がる。						

P (計画)	削除	真 価	基本的方向			職員意識の向上と人材育成	
	事 項	職員のやる気向上			取組区分		第2期プランから継続
	現状(当初)と課題	平成24年度より人事評定を実施しているが、平成28年度からの新たな人事評価を実施する上で各評価者の評価のばらつきを低減し評価目線の統一が課題である。					
	取組の内容	① 人事評価制度の導入					
		より高い能力を持った職員の育成のため、能力・実績に基づく人事評価制度を確立する。					
	数値目標・実施期限等	項目名	単 位	当初(平成28年度)		目標(平成32年度)	
		平成28年度より、新たな人事評価制度を導入		人事評定(平成26年度)		制度の導入であり目標となる数値はなし。	
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	新たな人事評価制度導入		実施				
	評価者の研修		実施				
人事評価導入検証		検証					
事業実施した場合、想定できる効果	組織全体の士気高揚、公務能率の向上により住民サービス向上に繋がる。						

P (計画)	主要施策(シカ)		真 価	基本的方向	組織機構の見直し・組織力の強化																							
	取組事項		定員管理の適正化		取組区分	第2期プランから継続																						
	現状(当初)と課題		平成27年度までの定員適正化計画に基づき適正な人員確保に努めている。平成28年度からの新たな計画に基づき、より効率的な組織機構の構築を踏まえながら適正な人員確保及び年齢構成の平準化が課題である。																									
	取組の内容		① 適正な定員管理 平成28年度からの定員適正化計画に基づく社会情勢等を踏まえた適正人員確保を図る。																									
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																					
	定員適正化計画に基づく定員管理		実施																									
	新規採用職員の計画的採用		実施																									
	定員適正化計画の検証						検証																					
	定員適正化計画の策定						実施																					
	事業実施した場合、想定できる効果		組織運営や事務処理の効果的、効率的な運営と合理化が図れる。																									
D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)	取組(何を)																								
			<ul style="list-style-type: none"> 45歳以上職員(20年以上勤続) 職員採用希望者 	<ul style="list-style-type: none"> 45歳以上の職員対象に早期退職の募集を実施 35歳までの方を対象に職員採用試験を実施 																								
C (評価)	自己評価	進捗状況	B: 目標達成に向けて順調に進捗している。																									
		良かった点	適正な人員確保をすることができた。																									
		悪かった点	障がい者の採用を実施できなかった。																									
(改善) A	実施予定・変更点など		採用試験の試験回数を2次試験から3次試験へと増やしたことで、より人物重視での採用を今後も実施していくとともに、障がい者雇用も実施していく。																									
P / C	数値目標・実績		項目名	単位	<table border="1"> <caption>数値目標・実績の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>216</td> <td>216</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>214</td> <td>215</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>216</td> <td>212</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>218</td> <td>214</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>219</td> <td>215</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>219</td> <td>219</td> </tr> </tbody> </table>			年度	目標	実績	計画当初	216	216	H28	214	215	H29	216	212	H30	218	214	R1	219	215	R2	219	219
			年度	目標				実績																				
			計画当初	216				216																				
			H28	214				215																				
H29	216	212																										
H30	218	214																										
R1	219	215																										
R2	219	219																										
平成28年度からの「定員適正化計画」に基づきながら、各年度の適正人員を検討し採用計画を立てる。	人																											
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)																										
216 (平成27年4月1日)	219 新たな定員適正化計画を策定	215																										

P (計画)	策(シナク)	真 価	基本的方向		組織機構の見直し・組織力の強化		
	事 項	定員管理の適正化		取組区分	第2期プランから継続		
	現状(当初)と課題	栃木県実務研修や宇都宮市及び小山広域保健衛生組合に派遣(出向)している。県警察本部からの職員受入を実施。県に対して町では相互交流を希望しているが出来ない状況(平成25年度までは県と相互交流を実施していたが、受入先の関係で実務研修とされている。)					
	取組の内容	② 人事交流の実施					
		栃木県や他の行政機関への実務研修や職員派遣を継続実施する。					
	数値目標・実施期限等	項目名	単 位	当初(平成28年度)		目標(平成32年度)	
		・栃木県への実務研修継続 ・県との相互交流検討 ・他の行政機関への職員派遣の継続 ・県警察本部からの受入継続	人	派遣は派遣期間や人数など各行政機関との協議が伴うものであるため事前には設定できない。		派遣は派遣期間や人数など各行政機関との協議が伴うものであるため事前には設定できない。	
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	人事交流実施		実 施				
	人事交流検証		検 証				
他の行政機関等との交流検討		検 討					
事業実施した場合、想定できる効果	職員の視野の拡大、専門知識の習得、政策形成能力の向上が図られ、質の高い行政サービスを提供できる。						

P (計画)	主要施策(シナク)		真 価	基本的方向		組織機構の見直し・組織力の強化			
	取組事項		最適な組織機構の編成		取組区分		第2期プランから継続		
	現状(当初)と課題		法改正や多種多様化した町民ニーズに対応するため事務分掌及び組織機構を随時見直している。常に町民にとって分かりやすく、町民サービスの向上が図られる効率的な組織機構が求められている。						
	取組の内容		① 組織機構、事務分掌の見直し 組織全体として職務能率の向上を図り、町民ニーズに対応した行政サービスを簡素で効率的な組織機構により提供できるように見直しを行う。						
	取組スケジュール			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	組織に関する課長ヒアリングの実施			実施	実施	実施	実施	実施	
	事務分掌・組織機構見直し			検 証					実 施
	事業実施した場合、想定できる効果		組織運営や事務処理の効果的、効率的な運営と合理化が図れる。						
	D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)		取組(何を)			
				各課室局長		組織に関するヒアリングを実施			
C (評価)	自己評価	進捗状況	B: 目標達成に向けて順調に進捗している。						
		良かった点	昨年組織機構を見直し、各課のヒアリングなど丁寧に実施することができた。						
		悪かった点	特になし						
(改善)	A	実施予定・変更点など	福祉・健康部門を中心に組織機構の見直しを実施した。その結果を踏まえ、組織運営上の不具合等を課長ヒアリングを実施することで確認する。						
P / C	数値目標・実績		項目名	単位					
			組織機構に関するヒアリングの実施	件					
			計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)				
			-	1	1				

P (計画)	主要施策(シンカ)	真 価	基本的方向	組織機構の見直し・組織力の強化			
	取組事項	業務改善の推進		取組区分	新規		
	現状(当初)と課題	各担当が抱える課題を、提示し検討する機会が少なく、適切な対応が遅れることがある。					
	取組の内容	① 横断的ミーティングの活用(オフサイトミーティング)					
		複数の所属課にまたがる課題解決として、横断的なミーティングの活用を進める。 また、所属課の枠を超えて話し合うことで、個人の意欲や協力し合う自発性を引き出す。					
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	設置及び運営に関する基準の策定		検討	策定・見直し			
	課題の抽出(テーマの選定)		アンケートの実施				
横断的ミーティング活用の周知		実施					
事業実施した場合、想定できる効果	所属の枠にとらわれず、複数の課からの必要な能力や経験を持つ人材を集めることで、幅広い視点に立ち、検討と対応ができる。						
(実行) D	取組実績	対象者・物(誰・何に)	取組(何を)				
		上三川町職員	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略策定にあたり、庁舎内各課の主事主査級を集めたアイデア会議を実施した。 ・女性による横断的ミーティングとして、検討テーマに応じて2ヶ月に1回程度のペースでFMかみのかわ(自主勉強会)を実施した。 				
(評価) C	自己評価	進捗状況	A:目標以上に進んでいる。				
		良かった点	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の所属にとらわれない活発な意見交換がなされ、アイデア会議の意見を踏まえた上で、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定した。 ・FMかみのかわと協力し、LINEスタンプ、シティプロモーションガイドブック『かみのかわっていいね』等を作製した。 				
		悪かった点	FMかみのかわは活動予算をもっていないため、活動できる範囲に限界がある。				
(改善) A	実施予定・変更点など	<p>地方創生に向けたアイデア会議の開催等、横断的なミーティングについて検討し実施していく。</p> <p>また、H30に立ち上げたFMかみのかわにおいて、今後もポロシャツやジャンパーのデザイン等、女性の目線で検討していく。</p>					
P / C	数値目標・実績	項目名	単位				
		横断的ミーティング開催回数	回				
		計画策定時 現況値	目標値 (R2)				実績値 (R1)
		-	7				8

P (計画)	策(シムカ)	芯下	基本的方向		財政の健全化			
	削除	事項	職員給与の適正化		取組区分	第2期プランから継続		
	現状(当初)と課題	国・県の情報を収集・把握し人事院勧告に基づき給与改定を実施している。新たに地公法改正により人事評価制度構築による給与への反映が平成28年度から実施されることから評価精度を高めることが必要。						
	取組の内容	① 給与水準の適正化の維持 人事院勧告に基づく給与改定を実施する。人事評価制度により職務・職責と実績を反映する給与制度の構築を目指す。						
	数値目標・実施期限等	項目名	単位	当初(平成28年度)		目標(平成32年度)		
		・人事院勧告に基づく給与改定の実施 ・平成28年度からの新たな人事評価制度実施による給与への反映		給与水準は各年度の人勤などに基づくもので年度数値指標はなし。		給与水準は各年度の人勤などに基づくもので年度数値指標はなし。		
		取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
		人事院勧告に基づく給与改定の検討・実施	検討・実施					
		人事評価制度の給与等人事管理に反映	実施					
	事業実施した場合、想定できる効果	公平で適正な給与水準を確保する(公務員の給与水準を民間給与水準と均衡させる。)ことができる。						

P (計画)	主要施策(シナク)		芯下	基本的方向		財政の健全化																							
	取組事項		経費の節減合理化		取組区分		新規																						
	現状(当初)と課題		財政構造の弾力性を示す指標である経常収支比率が、平成23年度以降90%以上となっており、本町の財政は硬直化している。そのため、社会経済や行政需要の変化に適切に対応していくための施策に充てる財源が少なくなっている。																										
	取組の内容		① 経常収支比率の改善 経常的に支出される経費のうち、一般財源で賄われる経費を削減する。また、経常的な収入である使用料・手数料の見直しを行い増収を図る。																										
	取組スケジュール			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																					
	使用料・手数料の見直し			実施	実施	実施																							
	当初予算編成における経常経費の削減			実施	実施	実施	実施																						
	補正予算編成における経常経費の抑制・削減			実施	実施	実施	実施	実施																					
	事業実施した場合、想定できる効果		社会経済や行政需要の変化に適切に対応できるよう、財政構造を柔軟な状態に改善できる。																										
	D (実行)	今年度取組実績		対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																							
		予算編成における経常経費の削減		予算査定は、効果と実施可能性を勘案して行った。また、補正予算査定では、現予算事業の執行状況、完了見込み及び補助事業の内示状況等を踏まえて行った。																									
C (評価)	進捗状況		B: 目標達成に向けて順調に進捗している。																										
	自己評価	良かった点	5年ぶりに臨時財政対策債を発行したことにより、指数は改善する結果となっている。																										
		悪かった点	受益者負担の原則に立ち、その積算根拠から改めて使用料の見直しまで行えた所管課は少ない。 新規事業立上げに合わせて既存事業廃止や見直しを行うといった意識づけもそうだが、経常事業においても財源をふまえた予算の執行をもっと意識させなければならない。																										
A (改善)	実施予定・変更点など		経常収支比率の改善という目標においては、町税収入の多寡及び臨時財政対策債の発行の有無に大きく左右されてしまうものであるが、特定財源の調査や確保について、引き続き各課への助言及び指導を行っていく。																										
P / C	数値目標・実績		項目名	単位		<table border="1"> <caption>経常収支比率の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標 (%)</th> <th>実績 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>90</td> <td>91.1</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>90</td> <td>70.1</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>90</td> <td>96.3</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>90</td> <td>64.9</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>90</td> <td>87.2</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>90</td> <td>80.5</td> </tr> </tbody> </table>			年度	目標 (%)	実績 (%)	計画当初	90	91.1	H28	90	70.1	H29	90	96.3	H30	90	64.9	R1	90	87.2	R2	90	80.5
			年度	目標 (%)	実績 (%)																								
			計画当初	90	91.1																								
			H28	90	70.1																								
H29	90	96.3																											
H30	90	64.9																											
R1	90	87.2																											
R2	90	80.5																											
経常収支比率	%																												
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)																											
91.1 (平成26年 度決算)	90.0未満 (令和元年度 決算)	87.2																											

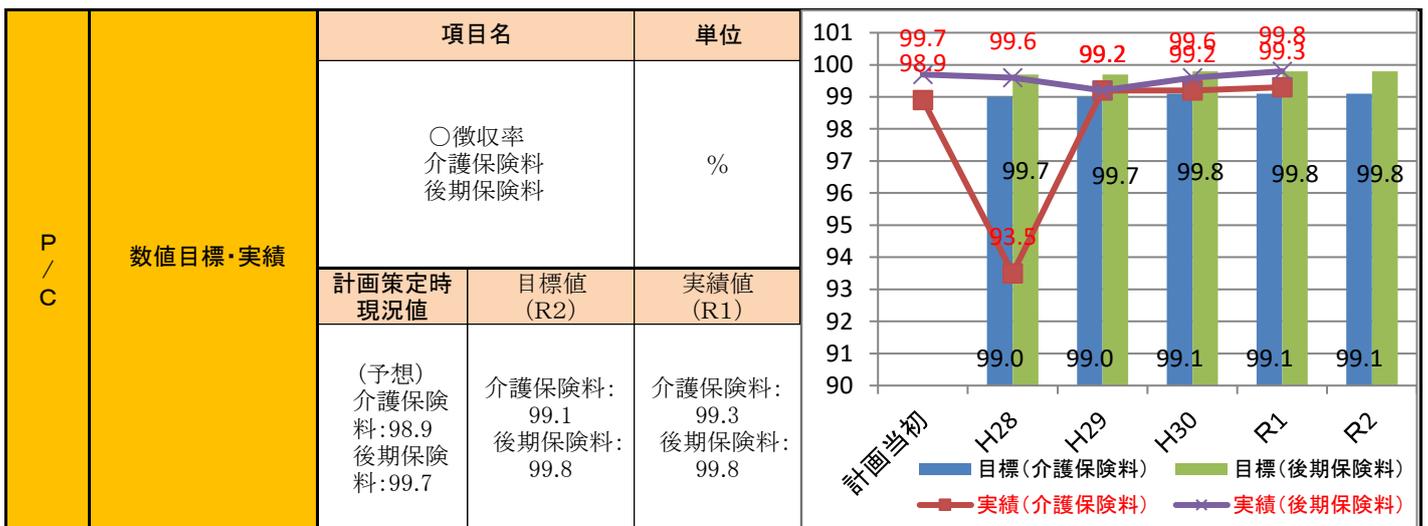
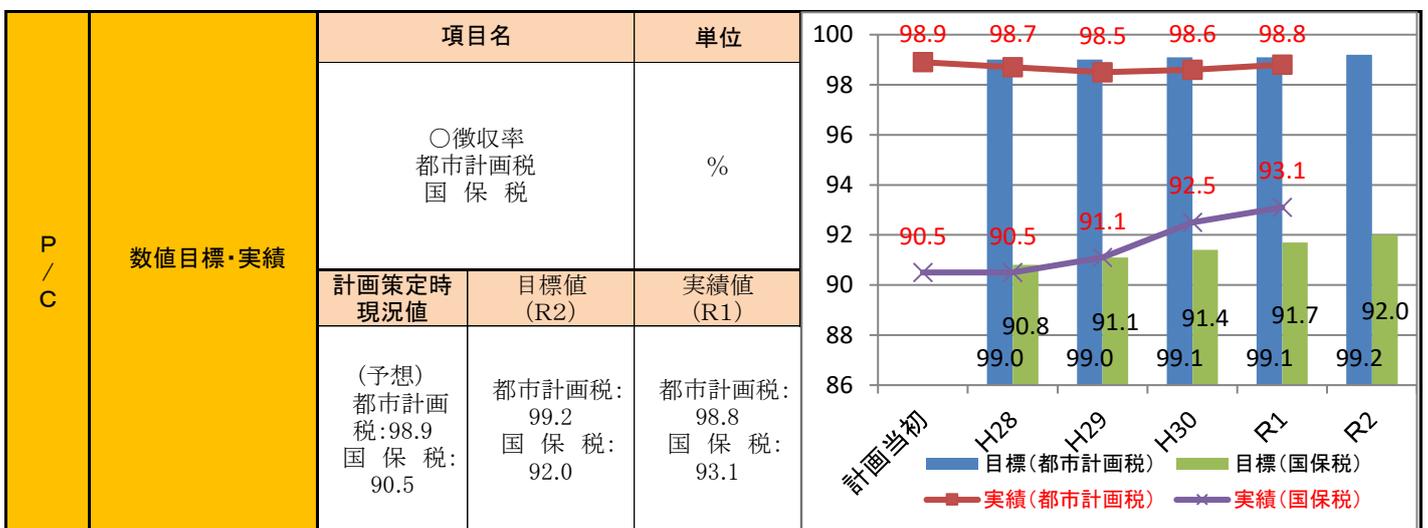
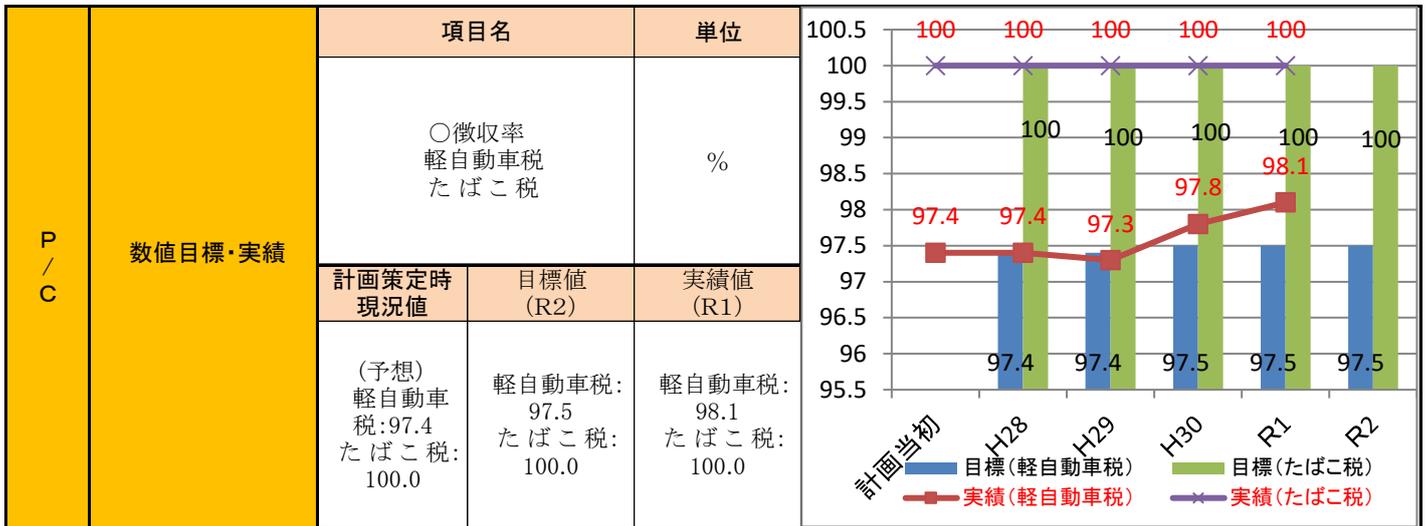
P (計画)	主要施策(シカ)		芯下	基本的方向	財政の健全化			
	取組事項		経費の節減合理化		取組区分	第2期プランから継続		
	現状(当初)と課題		現在の分別収集を導入した当初、家庭系ごみは減少したものの、その後の家庭系ごみは増加傾向にある。 ごみの分別や減量化に対する関心が低下しているため、そういった町民への働きかけが必要である。					
	取組の内容		② 可燃ごみ及び資源物への分別と生ゴミの水切りの周知・徹底 水切りネットを配布し、生ゴミの水切りの推奨と重要性の周知を行う。 ごみ処理の現状を周知することで、分別の必要性和重要性を感じてもらう。 ごみステーションを巡回監視し、ごみ分別について指導する。					
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	水切りネットの配布		実施					
	分別効果の周知・徹底		実施					
	ごみステーションの巡回・監視・指導		実施					
	事業実施した場合、想定できる効果		ごみ処分費用の低減。資源物売払い額の増加。					
	D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)	取組(何を)			
		①自治会等 ②イベント参加町民 ③小学4年生	①ごみの減量及びごみの分別に関する説明会を実施した。 ②健康福祉まつりで水きりネットを配布した。 ③ごみの減量及びごみの分別に関する出前授業を実施した。					
C (評価)	自己評価	進捗状況	B:目標達成に向けて順調に進捗している。					
		良かった点	自治会を対象としてごみの減量及びごみの分別に関する説明会を実施できた。健康福祉まつりで水きりネットを配布することができた。					
		悪かった点	説明会が新型コロナウイルス感染防止や台風19号による災害廃棄物対応で開催数が少なかつた。					
(改善) A	実施予定・変更点など		広報にごみ減量に関する記事を掲載する。					
P / C	数値目標・実績		項目名	単位				
			家庭系ごみ年間量 ※燃やせるごみのみ	t/年				
			計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)			
			5,901 (平成26年度 実績)	5,707	5,879			

P (計画)	主要施策(シカ)		芯下	基本的方向		財政の健全化																																
	取組事項		経費の節減合理化		取組区分		新規																															
	現状(当初)と課題		水道料金等の支払いについては、コンビニ納付の導入により口座振替の利用率が年々減少してきている。既使用者の納付方法は固定化しているため、新規使用者に対して働きかけを行うことが有効である。																																			
	取組の内容		③ 水道料金等の支払いにおける口座振替利用の促進 水道の新規使用者に対して、窓口等において料金支払いの口座振替利用を促進し、料金収納に係る経費の節減を図る。																																			
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																															
	新規使用者への周知 (周知方法の検討・改善)		<div style="text-align: center;"> 実施 </div> <div style="text-align: center;"> 検討・改善 </div>																																			
	事業実施した場合、想定できる効果		料金収納に係る経費を節減することにより、経営の安定が図れる。																																			
D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																																	
			上下水道使用者		<ul style="list-style-type: none"> ・窓口や電話において(特に新規使用者に対して)口座振替の利用案内をした。 ・町広報やHP、検針票等に「口座振替のすすめ」を記載した。 ・口座振替希望で手続き未済の者に個別に通知をした。 																																	
C (評価)	自己評価	進捗状況	D:遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい。																																			
		良かった点	課題への取組を通して、職員の経費削減に対する意識を高めることができた。町広報への掲載及び個別通知により、口座振替推進のPRの幅を広げることができた。																																			
		悪かった点	コンビニ納付の利便性が大きいため、口座振替利用率の向上に繋げることが難しかった。																																			
(改善) A	実施予定・変更点など		<ul style="list-style-type: none"> ・納付書払いのお客様に対して、口座振替勧奨のダイレクトメールを送付する。 ・町広報に、口座振替により手数料が削減される旨の記事を掲載する。 																																			
P / C	数値目標・実績		項目名	単位		<table border="1" style="display: none;"> <caption>口座振替利用率【新規使用者】の推移</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標 (%)</th> <th>実績 (%)</th> <th>【新規使用者】 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>81.7</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>83</td> <td>82.2</td> <td>55.4</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>83.5</td> <td>82</td> <td>62.1</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>84</td> <td>81.3</td> <td>62.3</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>84.5</td> <td>80.4</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>85</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>					時期	目標 (%)	実績 (%)	【新規使用者】 (%)	計画当初	-	81.7	-	H28	83	82.2	55.4	H29	83.5	82	62.1	H30	84	81.3	62.3	R1	84.5	80.4	59	R2	85	-	-
			時期	目標 (%)	実績 (%)						【新規使用者】 (%)																											
			計画当初	-	81.7						-																											
			H28	83	82.2						55.4																											
H29	83.5	82	62.1																																			
H30	84	81.3	62.3																																			
R1	84.5	80.4	59																																			
R2	85	-	-																																			
口座振替利用率【新規使用者】	%																																					
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)																																				
81.7 (H27.7未現在の 使用者 全体の納付実 績)	85.0	80.4																																				

P (計画)	主要施策(シカ)		芯下	基本的方向		財政の健全化																								
	取組事項		経費の節減合理化		取組区分		第2期プランから継続																							
	現状(当初)と課題		公共下水道と比較すると普及率は低くなっており、事業の経営の安定を図るために接続率を向上させる必要がある。																											
	取組の内容		④ 農業集落排水の接続率の向上																											
			未接続世帯の訪問及び、自治会回覧や町ホームページ等で普及率の向上を図る。																											
	取組スケジュール			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																						
	未接続世帯の訪問			実施																										
	町HPや自治会回覧等による周知			実施																										
	事業実施した場合、想定できる効果		接続者が増えることにより収益増加につながり、経営の安定が図れる。																											
	D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																								
農業集落排水の未接続者				<ul style="list-style-type: none"> 未接続世帯への戸別訪問 加入案内パンフレットの刷新、町ホームページへの掲載 広報紙への接続案内の掲載 																										
C (評価)	自己評価	進捗状況	C:やや遅れているが、概ね順調に進捗している。																											
		良かった点	<ul style="list-style-type: none"> 接続率向上のため接続工事費の融資あっせんに対して限度額を50万円から100万円に増額する条例改正を行い、令和2年4月より施行することが出来た。 																											
		悪かった点	戸別訪問がコロナの影響で一部の未加入者に加入案内を郵送する対応となった。																											
(改善) A	実施予定・変更点など		<ul style="list-style-type: none"> 接続工事費の融資あっせんに対する限度額が100万に増額したことの周知を行う。 水道加入金が令和4年3月まで半額となることから上水道と連携して戸別訪問等で接続の必要性等を周知する。 																											
P / C	数値目標・実績		項目名	単位		<table border="1"> <caption>接続率の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>68.1</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>72.6</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>74.0</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>75.2</td> <td>77</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>76.4</td> <td>78.5</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>-</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>				年度	実績 (%)	目標 (%)	計画当初	68.1	-	H28	72.6	73	H29	74.0	75	H30	75.2	77	R1	76.4	78.5	R2	-	80
			年度	実績 (%)	目標 (%)																									
			計画当初	68.1	-																									
			H28	72.6	73																									
H29	74.0	75																												
H30	75.2	77																												
R1	76.4	78.5																												
R2	-	80																												
接続率	%																													
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)																												
68.1 (平成26年度 末実績)	80	76.4																												

P (計画)	主要施策(シカ)		芯下	基本的方向		財政の健全化			
	取組事項		経費の節減合理化		取組区分		第2期プランから継続		
	現状(当初)と課題		県内の他市町と比較しても普及率は低くなっており、水道事業の経営の安定を図るために普及率を向上させる必要がある。						
	取組の内容		⑤ 水道普及率の向上 水道未加入者宅を訪問したり、町ホームページ等で町水道の安全性をPRし、普及率の向上を図る。						
	取組スケジュール			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	水道未加入者宅の訪問			実施					
	町HPや広報誌による周知			実施					
	事業実施した場合、想定できる効果		水道利用者が増えることにより収益増加につながり、経営の安定が図れる。						
D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)		取組(何を)				
			水道未加入者		<ul style="list-style-type: none"> 戸別訪問等による加入促進を実施した(上水道:57世帯、下水道:約100世帯) 下水道では、加入率の低い農業集落排水区域において地元維持管理組合と協同により実施した。 ホームページや広報紙への掲載による上下水道の加入促進を実施した。 新たな対策として、水道加入金の減免制度を実施した。 				
C (評価)	自己評価	進捗状況	B: 目標達成に向けて順調に進捗している。						
		良かった点	<ul style="list-style-type: none"> 個別訪問により上下水道の必要性等について再周知を図ることができた。 水道加入金の減免制度の実施により、井戸から上水道への切り替え増加につながった(H30:31件 R1:49件 58%の増) 						
		悪かった点	<ul style="list-style-type: none"> 戸別訪問により、生活環境の改善や安心安全性などの上下水道のメリット面については理解を得られるが、使用に要する費用面の負担や高齢世帯で跡継ぎがいないことなどが使用をしない主要因となっていることから、思うようには加入件数の増につながらない。 						
(改善) A	実施予定・変更点など		<ul style="list-style-type: none"> 引き続き戸別訪問や広報紙等への掲載によりPRを実施する。 引き続き水道加入金の減免制度を実施し上水道の加入促進を図る。 新たにペットボトルの配布によるPRを実施する。 R2年度より下水道の接続工事費の融資あっせんに対する限度額を引き上げる。 						
P / C	数値目標・実績		項目名	単位	92 91 90 89 88 87 86 85 84				
			普及率	%					
	計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)						
	86.6 (平成26年度 末実績)	91	89.6						

P (計画)	主要施策(シムカ)		芯下	基本的方向	歳入の確保・施設の有効利用			
	取組事項		町税等の徴収率の向上		取組区分	第2期プランから継続		
	現状(当初)と課題		町県民税の特別徴収が一斉指定され、納税義務者が個人から会社になったため一つの会社の未納により複数人の滞納者が発生する事が予想される。					
	取組の内容		① 現年度課税分の年度内完納 現年度課税分の年度内の完納を目指し、納期限経過後の督促・催告を強化する。特に町県民税特別徴収事業所への滞納整理を強化する。					
	取組スケジュール			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	督促・催告状発送			実施				
	滞納事業所の調査(財産・居所)			調査				
	事業所への訪問(滞納整理)			実施				
	事業実施した場合、想定できる効果		町県民税の特別徴収の徴収率を確保することにより、過年度滞納者が過年度分の分納に専念することとなり、滞納額の減少につながる。					
	D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)	取組(何を)			
		特徴事業所滞納者	<ul style="list-style-type: none"> ・督促状、催告書送付 ・電話催告、かみたんメール発信(納期限、納付勧奨) ・財産調査 ・差押(給与、預金) 搜索 公売 ・特別滞納整理(臨戸訪問)、特徴事業所訪問 					
C (評価)	自己評価	進捗状況	B: 目標達成に向けて順調に進捗している。					
		良かった点	大口滞納者の滞納処分については、担当制とし、係長が進捗を管理。催告の通知文、用紙、封筒を見直し、目にとまる通知を作成した。県税との協同により、課税状況や居住状況の確認が必要な者については臨戸訪問を行った。県税との共同でおこなった検索では、完納につなげることができた。					
		悪かった点	確定申告による繁忙期前に滞納処分を終わらせるようにスケジュールの見直しを行うこと。					
(改善) A	実施予定・変更点など		介護保険、後期高齢医療保険料の特徴捕捉前の普通徴収分について、周知文と納付書を作成、送付。県税派遣を通して、他市町との情報交換時に積極的に意見交換をする。新型コロナウイルス感染症の影響により納税が困難な方に対する納税相談を適切に行っていく。					
P / C	数値目標・実績		項目名	単位	99.6 99.4 99.2 99.0 98.8 98.6 98.4 98.2			
			○徴収率 町民税 固定資産税	%				
	計画策定時	現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)				
	(予想) 町民税: 98.6 固定資産 税:98.9		町民税: 98.9 固定資産税: 99.2	町民税: 99.0 固定資産税: 98.8				



P (計画)	主要施策(シカ)		芯下	基本的方向		歳入の確保・施設の有効利用																								
	取組事項		町税等の徴収率の向上		取組区分		新規																							
	現状(当初)と課題		平成26年度の個人町民税の未申告者は、当初558名であったが、3回の催告を実施した結果、130名程度に減少させることができた。 しかし、公平で適正な賦課徴収を行うためには、更なる減少を図ることが必要である。																											
	取組の内容		② 個人住民税未申告者の減少 納税に対する町民の理解と協力を得るため、継続して催告や申告納税相談を実施し、未申告者の減少を図る。																											
	取組スケジュール			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																						
	催告・申告納税相談			実施																										
	事業実施した場合、想定できる効果		申告漏れを防ぎ、公平で適正な賦課徴収を行うことにより、課税額の増額が見込める。																											
D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																									
			個人住民税未申告者		未申告者の抽出、名簿作成、通知送付(年3回)、臨戸訪問による申告受付(年1回)																									
C (評価)	進捗状況		C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している。																											
	自己評価	良かった点	電算システムの伝言板機能を活用し、未申告者が他課・係に来庁した際に、住民税係へ案内してもらい、本人及び親族に直接、説明・申告受付等ができるようにした。他課・係との連携を図れたことにより、未申告者数の減少につながった。																											
		悪かった点	複数回訪問しても、不在で会えない方等、申告につながらなかったケースが残った。																											
A (改善)	実施予定・変更点など		<ul style="list-style-type: none"> 臨戸訪問による申告の説明・受付を重点的に行う。 国民健康保険税等の税額変更が見込まれる対象者を重点的に訪問する。 国・県・町の3税の連携については、令和元年度法人住民税未申告について、部会を立ち上げ、情報を共有し、その減少に努めている。引き続き、税務署・県税事務所との連携を密に図り未申告者の減少につなげる。 																											
P / C	数値目標・実績		項目名	単位		<table border="1"> <caption>数値目標・実績の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標 (%)</th> <th>実績 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>80</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>82</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>85</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>88</td> <td>84.5</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>90</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>				年度	目標 (%)	実績 (%)	計画当初	-	76	H28	80	78	H29	82	82	H30	85	82	R1	88	84.5	R2	90	-
	年度	目標 (%)	実績 (%)																											
	計画当初	-	76																											
	H28	80	78																											
H29	82	82																												
H30	85	82																												
R1	88	84.5																												
R2	90	-																												
		当初未申告者数に対する催告等により申告を行った者の割合		%																										
		計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)																										
		76	90.0	84.5																										

P (計画)	主要施策(シンカ)		芯下	基本的方向		歳入の確保・施設の有効利用		
	取組事項		町税等の徴収率の向上		取組区分		新規	
	現状(当初)と課題		課税客体の把握					
	取組の内容		③ 課税客体の的確な把握と適正な課税					
			課税誤り、賦課漏れ、滅失漏れを防止するために、町内の土地、家屋を巡回、調査する。					
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	調査・巡回		実施					
事業実施した場合、想定できる効果		地方分権が進む中、自主財源を確保し、行政サービスの向上につなげる。						
D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)		取組(何を)			
			町内の土地、家屋		「土地」 農地転用申請状況の確認、現地調査により、土地の利用状況の変化を把握した。 「家屋」 建築確認申請状況の確認、現地調査により、賦課漏れのないように新築家屋を把握した。			
C (評価)	進捗状況		B: 目標達成に向けて順調に進捗している。					
	自己評価	良かった点	未調査路線が残数で限られていたため、ニューモビリティを活用し、細い路地等も効率的に巡回することができた。					
		悪かった点	目標は、達成しているものの、10月は台風19号の影響もあり、路線調査が思うように出来なかった。					
A (改善)	実施予定・変更点など		引き続き、未調査路線について調査を行う。 現地調査を行う際には、地番図や航空写真を活用し、課税客体の把握に努める。					
P / C	数値目標・実績		項目名	単位				
			調査・巡回率 (路線数)	%				
			計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)			
			23.2	100 (1,085路線)	92.0			

P (計画)	主要施策(シカ)	芯下	基本的方向	歳入の確保・施設の有効利用																							
	取組事項	町税等の徴収率の向上		取組区分	新規																						
	現状(当初)と課題	3ヶ月以上の未納者(滞納者)が固定化しており、定期的に家賃等を徴収することが困難な状況である。その解消と徴収率を向上させていく対策の検討が必要。																									
	取組の内容	④ 町営住宅家賃及び駐車場使用料の徴収率向上を図るための改善																									
		督促状等の送付や電話・訪問により、家賃使用料等の未納の解消を図る。																									
	取組スケジュール	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																					
	新規入居者への周知(周知方法の改善)	実施 検討	実施																								
	滞納者への督促状の送付・連絡・話し合いの時期及び内容の検討	実施 検討	実施																								
	長期滞納者への差し押さえの検討	実施 検討	実施																								
	事業実施した場合、想定できる効果	歳入の有効な活用ができる。																									
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)	取組(何を)																								
		滞納者(現年・過年)	<ul style="list-style-type: none"> 滞納者及び連帯保証人への滞納状況の通知及び請求 納付漏れ、口座振替不能者への早期対応 電話、直接訪問での督促(毎月) 																								
C (評価)	進捗状況	D:遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい。																									
	自己評価	良かった点	毎月の本人への電話・訪問、連帯保証人への請求等により、長期滞納の解消の兆しが見えた。過年分の徴収率が大幅に増えた(44.4%→76.1%)。																								
		悪かった点	過年の滞納分を優先的に徴収したため、現年の徴収率が下がってしまった(94.5%→91.7%)。																								
(改善) A	実施予定・変更点など	<ul style="list-style-type: none"> 滞納者の毎月の給料日に合わせた電話連絡、直接訪問等の強化 滞納者の生活時間の把握と、それに合わせた業務時間外等での対応 税務課との情報共有、滞納者の来庁時に直接交渉できるよう連携強化 																									
P / C	数値目標・実績	項目名	単位	<table border="1"> <caption>徴収率の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標 (%)</th> <th>実績 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>96.4</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>97</td> <td>98.1</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>98</td> <td>97.7</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>98</td> <td>93.4</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>98</td> <td>90.7</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>98</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			年度	目標 (%)	実績 (%)	計画当初	-	96.4	H28	97	98.1	H29	98	97.7	H30	98	93.4	R1	98	90.7	R2	98	-
		年度	目標 (%)				実績 (%)																				
		計画当初	-				96.4																				
		H28	97				98.1																				
H29	98	97.7																									
H30	98	93.4																									
R1	98	90.7																									
R2	98	-																									
翌年度の5月31日(出納閉鎖まで)の家賃及び、駐車場使用料の徴収率	%																										
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)																									
96.4 (3ヶ年平均)	98	90.7																									

P (計画)	主要施策(シムカ)		芯下		基本的方向		歳入の確保・施設の有効利用																								
	取組事項		広告収入の増加			取組区分		新規(取組再設定)																							
	現状(当初)と課題		現在、広報かみのかわ及び町ホームページに企業等の広告を募集・掲載し、財源の確保を図っているが、より多くの企業に広告の掲載できることを周知し、活用してもらおう。																												
	取組の内容		① 広報かみのかわ等広告掲載事業の推進																												
			商工会や町内の企業などに赴き、広告掲載についてPRを行い財源の確保を図る。																												
	取組スケジュール			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																							
	商工会や町内企業への訪問			実施																											
	町広報紙やホームページでのPR			実施																											
事業実施した場合、想定できる効果		広報かみのかわ及び町ホームページに企業等の広告を掲載し、広告収入の増により財源の確保を図る。																													
D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)				取組(何を)																								
			①町内の事業者 ②広告掲載者				①町内企業を訪問し、広告掲載を依頼 ②広告掲載期間の延長を依頼																								
C (評価)	進捗状況		A:目標以上に進んでいる。																												
	自己評価	良かった点	新規掲載する事業者があった。																												
		悪かった点	事業者のイベント等の中止に伴い、掲載を取りやめる事業者がいた。																												
(改善) A	実施予定・変更点など		広報・ホームページともに、広告を継続して掲載してくれる事業者の募集を図りたい。																												
P / C	数値目標・実績		項目名		単位		<table border="1"> <caption>数値目標・実績 (広告収入の増加)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (R2)</th> <th>実績値 (R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>510,000</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>600,000</td> <td>790,000</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>620,000</td> <td>615,000</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>635,000</td> <td>460,000</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>645,000</td> <td>805,000</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>665,000</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>				年度	目標値 (R2)	実績値 (R1)	計画当初	-	510,000	H28	600,000	790,000	H29	620,000	615,000	H30	635,000	460,000	R1	645,000	805,000	R2	665,000	-
			年度	目標値 (R2)	実績値 (R1)																										
			計画当初	-	510,000																										
			H28	600,000	790,000																										
H29	620,000	615,000																													
H30	635,000	460,000																													
R1	645,000	805,000																													
R2	665,000	-																													
広告収入の増加		円																													
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)																													
-	665,000	805,000																													

P (計画)	主要施策(シムカ)		芯下	基本的方向	歳入の確保・施設の有効利用			
	取組事項		財産の有効活用	取組区分		第2期プランから継続		
	現状(当初)と課題		「公有財産の運用方針」に基づき、未利用財産の売却、再利用の調査検討を行っている。未利用財産は境界確認困難地、河川区域内等の売却・再利用が困難である。					
	取組の内容		① 行政財産の見直し					
			未利用財産を有効に運用できるよう精査、検討を行い、財源の確保を図る。					
	取組スケジュール			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	未利用財産の調査			調査				
	公有財産検討委員会による審議			審議				
	未利用財産の売却・再利用			売却・再利用				
	事業実施した場合、想定できる効果		財源の確保が図れる。					
D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)		取組(何を)			
			未利用財産(土地)		<ul style="list-style-type: none"> ・3-2詰所の公売実施。 ・未利用財産の隣接地者に売払い交渉を行う。 			
C (評価)	進捗状況		C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している。					
	自己評価	良かった点	旧3-2消防団詰所跡地の公売を実施した。(購入希望者は無し)					
		悪かった点	傾斜地及び河川区域内により売却・再利用が困難である。					
A (改善)	実施予定・変更点など		旧3-2消防団詰所の売り払い継続、旧ふざかし保育所等の未利用公有地の売却又は有効活用の検討を行う。 ※下記グラフのR2の数値は、R2.7月末現在の数値を参考に入力しております。					
P/C	数値目標・実績		項目名	単位				
			行政財産の見直し (長期的な目標としては、0件が目標)	件				
			計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)			
			21件 (16169.8㎡)	-	22件 (16461.2㎡)			

P (計画)	主要施策(シカ)		芯下	基本的方向		歳入の確保・施設の有効利用																											
	取組事項		公共施設マネジメントの推進		取組区分		新規																										
	現状(当初)と課題		本町の橋梁は、架設時期が集中しているため、今後老朽化による改修や架替えの経費が増加することが予想される。																														
	取組の内容		① 橋梁長寿命化計画に基づく維持管理 定期的な点検などにより、橋梁の現状を把握し、予防的な修繕によって道路のネットワークの安全性、信頼性を向上させ、橋梁の長寿命化と修繕費用の縮減を図る。																														
	取組スケジュール			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																									
	橋梁点検業務			実施(H23年度)	実施																												
	長寿命化計画策定			実施(H24年度)	実施																												
	長寿命化修繕工事			実施(H25年度)			実施																										
	事業実施した場合、想定できる効果		長寿命化計画により事業の均一化が図れる。																														
	D (実行)	取組実績			対象者・物(誰・何に)				取組(何を)																								
			橋梁長寿命化計画による修繕事業				R1年度は、前年度に策定した計画(再策定)に基づき、橋本東橋の修繕詳細設計をおこなった。																										
C (評価)	進捗状況		B: 目標達成に向けて順調に進捗している。																														
	自己評価	良かった点	早めの処置により、軽微な修繕工事で良好な状態を維持できていることが確認できた。R2年度時点で唯一Ⅲ判定である橋本東橋については、予定どおりR2年度修繕工事を実施できる見込み。																														
		悪かった点	特になし																														
A (改善)	実施予定・変更点など		Ⅲ判定の橋本東橋については、R2年に修繕工事实施予定。今後は、5年に一度に実施する点検計画を見直し、点検を平準化し、単年度にかかる費用を分散させる。また、Ⅱ判定の橋梁についても、国庫補助金を活用し、計画的に修繕を図っていく。																														
P/C	数値目標・実績		項目名		単位		<table border="1"> <caption>橋梁修繕数実績</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>6.5</td> <td>6.5</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>						年度	目標	実績	計画当初	6	6	H28	6	6	H29	6	6	H30	6	6	R1	6.5	6.5	R2	7	7
			年度	目標	実績																												
			計画当初	6	6																												
			H28	6	6																												
H29	6	6																															
H30	6	6																															
R1	6.5	6.5																															
R2	7	7																															
修繕橋梁数		橋																															
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)																															
6	7	6.5																															

P (計画)	主要施策(シカ)		伸化	基本的方向	今ある価値の伸化		
	取組事項		イベントの活性化		取組区分	新規	
	現状(当初)と課題		毎夏ひまわりの開花時期に合わせて「サンフラワー祭り」を開催し、町内外からの来場者を集めている。 サンフラワー祭りの知名度向上に努める必要がある。				
	取組の内容		① サンフラワー祭りの活性化 様々なメディアに働きかけて、イベントのPRを促進させる。 また、駐車場の確保やイベントを充実させるための工夫を検討する。				
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	PR活動の拡充、検討		実施				
	イベント内容の検討		実施				
	事業実施した場合、想定できる効果		町の魅力の向上と交流人口の増加が図れる。				
D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)	取組(何を)			
			町民、観光客	<ul style="list-style-type: none"> フリーペーパーを活用した開催PR(共通) 新聞記事を活用した開催PR(共通) 無料のイベント情報配信サイトを活用した開催PR(共通) 3町サミットによる共同事業として、フォトスポットを設置 			
C (評価)	進捗状況		A:目標以上に進んでいる。				
	自己評価	良かった点	「多くの広告媒体」「多くの回数」による周知は、集客に関して効果が大きいことが分かった。				
		悪かった点	イベント内容がマンネリ化しているため、内容の充実を図る必要がある。				
(改善) A	実施予定・変更点など		サンフラワー祭りでは、令和元年度において、3町サミットによる共同事業として、Instagramフォトコンテストを開催し好評であったため、次回以降、拡充して実施する予定。				
P / C	数値目標・実績		項目名	単位	25,000		
			サンフラワー祭り 来場者数	人	17,000 17,500 20,000 20,000 22,000		
	計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)	17,500 18,000 19,000 21,000 22,000			
	17,000 (H26年実績)	22,000	22,000	0			

P (計画)	主要施策(シカ)		伸化	基本的方向	今ある価値の伸化																							
	取組事項		イベントの活性化		取組区分	新規																						
	現状(当初)と課題		<p>蓼沼緑地公園をメイン会場にニュースポーツを始めとする多種目のスポーツ・レクリエーションの実施と、様々なアトラクションを通じて多くの町民に楽しんでもらい、スポーツ活動を知ってもらうとともに、スポーツを始めるきっかけ作りの場を提供している。</p> <p>会場の限られたスペースとスタッフ数の中で町民が来場・体験したくなるようなスポーツを選定し、町民一人1スポーツの実践を目標に参加者の増加を目指す。</p>																									
	取組の内容		<p>② 町民スポーツ・レクリエーション祭の活性化</p> <p>町民スポーツ・レクリエーション祭の参加者の増加のため、周知方法や競技及びアトラクションの内容について検討・改善に努める。</p>																									
	取組スケジュール			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																				
	周知方法の検討			実施																								
	イベント内容の検討			実施																								
				検討																								
	事業実施した場合、想定できる効果		町民の健康・体力の維持管理と地域の交流の活性化に寄与できる。																									
	D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)	取組(何を)																							
イベントとしての完成度を上げ、参加者の満足度を向上させる。			台風の影響により中止となった。																									
C (評価)	進捗状況		C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している。																									
	自己評価	良かった点	<ul style="list-style-type: none"> 運動の習慣では、20代から40代までが、やや低い傾向にある。生活、娯楽等の多様化により運動離れが考えられる。10代は運動する機会が多いことから、運動習慣が持続されていない状況にある。 スポレク祭参加者数は、台風の影響で中止となったことから0となった。 																									
		悪かった点	<ul style="list-style-type: none"> 学生時代に行っていたスポーツを、20代以降にどのようにつなげていくか 運動の習慣をつける方法 																									
A (改善)	実施予定・変更点など		<ul style="list-style-type: none"> 体育協会、スポーツ推進委員等の協力を得て各種教室等に新規参加者の声掛け等を行う。 イベント等でスポーツを通しての健康増進をPR。スポレク祭の内容を検討する。 中高生からボランティアを募ることで、イベントへの協力と中高生への周知・PRを図る。さらに家族にも運動について興味を持ってもらう。 																									
	P/C	数値目標・実績		項目名	単位	<table border="1"> <caption>数値目標・実績 (来場者数)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初 (H27)</td> <td>2,100</td> <td>2,100</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>3,200</td> <td>3,200</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>3,660</td> <td>3,660</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>3,800</td> <td>1,500</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>3,900</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>4,000</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>			年度	目標	実績	計画当初 (H27)	2,100	2,100	H28	3,200	3,200	H29	3,660	3,660	H30	3,800	1,500	R1	3,900	0	R2	4,000
年度		目標	実績																									
計画当初 (H27)		2,100	2,100																									
H28	3,200	3,200																										
H29	3,660	3,660																										
H30	3,800	1,500																										
R1	3,900	0																										
R2	4,000	0																										
計画策定時 現況値	2,100 (H27年実績)	目標値 (R2)	3,200	実績値 (R1)	0	台風のため中止																						

P (計画)	主要施策(シカ)		伸化	基本的方向		今ある価値の伸化																								
	取組事項		地域発信力の強化		取組区分		新規																							
	現状(当初)と課題		現在、町民への情報配信手段の1つとして、町からかみたんメールを配信しているが、今後もより多くの町民に向けて有用な情報を発信できるように、登録者を増加させる必要がある。																											
	取組の内容		① かみたんメールへの関心の増加及び適切な登録方法の紹介 かみたんメールの発信する情報について町民が興味関心を持てるように、具体的に紹介する。また、登録方法についてもスムーズに登録できるように登録方法の紹介を検討する。																											
	取組スケジュール			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																						
	配信内容のPR			実施																										
	登録方法の説明の最適化			実施																										
	事業実施した場合、想定できる効果		町民のかみたんメールに対する興味・関心を向上させることで、登録者数(利用者)の増を図る。																											
D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																									
			全町民		町ホームページや広報かみのかわへの掲載 いきいきプラザの町PRブースでの周知																									
C (評価)	進捗状況		A: 目標以上に進んでいる。																											
	自己評価	良かった点	地域の防災に対する意識の高まりから、登録者数が増加傾向にある。																											
		悪かった点	要点がわかりづらく読みにくい内容のメールが配信されていた。																											
(改善) A	実施予定・変更点など		各担当課より、多くの情報が配信されているが、広報の内容を転用していると思われるものがあつた。 登録者の立場に立ったメールとなるように、調査・研究していきたい。																											
P / C	数値目標・実績		項目名	単位		<table border="1"> <caption>かみたんメールの登録者数実績</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>2,851</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>4,000</td> <td>3,998</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>4,000</td> <td>4,440</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>4,000</td> <td>4,706</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>5,000</td> <td>5,298</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>5,200</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>				年度	目標	実績	計画当初	-	2,851	H28	4,000	3,998	H29	4,000	4,440	H30	4,000	4,706	R1	5,000	5,298	R2	5,200	-
			年度	目標	実績																									
			計画当初	-	2,851																									
			H28	4,000	3,998																									
H29	4,000	4,440																												
H30	4,000	4,706																												
R1	5,000	5,298																												
R2	5,200	-																												
かみたんメールの登録者数	人																													
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)																												
2,851 (平成27年4月 1日)	5,200	5,298																												

P (計画)	主要施策(シカ)		伸化	基本的方向	今ある価値の伸化		
	取組事項		地域発進力の強化		取組区分	新規	
	現状(当初)と課題		現在、直売所等で町農産物を使用した加工品の販売を行っている。 今後は、町農産物の競争力・農家所得の向上の観点から、ブランド化および生産から加工・販売までを行う6次産業化を推進する必要がある。				
	取組の内容		② 農産物及び加工品等のブランド化 ・町農産物及び加工品等のPR。 ・町農産物を使用した商品開発を推進する。 ・町産農作物及び加工品等のブランドの認定。 ・農産物の生産から加工・販売までを行う6次産業化を推進する。				
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	町農産物のPR(PR方法の改善)						
	新商品の開発・販売推進						
	町産農作物及び加工品等のブランド認定						
	事業実施した場合、想定できる効果		農作物の新たな販路確保や、農業所得の向上につながる。				
	D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)	取組(何を)		
消費者 加工組合 6次産業化に関心のある農業者		農産物直売所において農産物及び加工品の販売を実施した。イベント(大洗町)や産直市(JR大宮駅)において農産物及び加工品のPR、販売を実施した。 県や関係機関の研修会等の情報を提供し、加工商品のブランディングに向けラベル・パッケージデザインの更新につなげた。 かみのかわブランドとしてのPRの他、県と連携し、6次産業化商品を駅構内での販売や宇都宮市内百貨店での販売会を実施。					
C (評価)	進捗状況		C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している。				
	自己評価	良かった点	県内外幅広く消費者に農産物及び加工品のPRを行った。加工組合がこれまで開発した加工品11件がかみのかわブランドに認定された。				
		悪かった点	食品表示法施行に伴う栄養成分表示の義務化への対応等により、継続して新商品開発を進めてきたが商品化に至らなかった。				
A (改善)	実施予定・変更点など		県や関係機関と連携し、加工組合と情報交換や先進事例研修を行い、新商品の開発、販売に繋げる。農産物直売所を活用して、本町農産物・加工品のPR、販売に繋げる。				
P / C	数値目標・実績		項目名	単位			
			新商品の開発(累計)	6件			
			計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)		
			2	10	6		

P (計画)	主要施策(シンカ)	伸化	基本的方向	今ある価値の伸化																							
	取組事項	地域発進力の強化	取組区分	新規																							
	現状(当初)と課題	農業就業人口の減少に歯止めがかからない中で、遊休農地の発生を防ぎ、単位面積の担い手へ農地の利用集積を加速する必要がある。																									
	取組の内容	③ 中核的担い手農家等へ農地の利用集積																									
		農地中間管理事業を活用した農地集積事業の周知を図る。 広報・ホームページだけでなく、JA集落座談会における周知・指導や、農業者への事業案内の個別配布を行う。 農地の受け手となる担い手の育成・確保を図る。																									
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																				
	町民への周知(周知方法の改善)		検証																								
	担い手の育成・確保		実施																								
	農地の集積		実施																								
	事業実施した場合、想定できる効果		農地の利用集積により、作業効率、単位面積当たり収入額の向上、遊休農地発生を抑止につながる。																								
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																							
		リタイアを考えている農業者、農地の相続人等農地の出し手及び将来にわたり地域の中心経営体として期待される農地の受け手となる担い手		農業公社と連携し、農地中間管理事業等農地の集積・集約化に係る制度のPRを実施した。 人・農地プラン実質化に向けた地域会合において農地中間管理事業を説明 土地利用型経営体育成事業及び園芸産地振興対策事業により規模拡大に係る農業機械や施設の導入補助を実施した。																							
C (評価)	進捗状況		A:目標以上に進んでいる。																								
	自己評価	良かった点	地域の中心となる担い手(法人・個人)への農地の集積が進んだ。																								
		悪かった点	農地を所有する非農家等、農地の出し手に対する周知が不足している。																								
(改善) A	実施予定・変更点など		農業公社やJA等関係機関と連携して、農地の集積・集約化に関する制度のPRを実施する。 農地の受け手となる担い手の育成・確保を図るため、関係機関と連携を図り、農業に関心のある方や就農希望者に対してPRを実施する。																								
P / C	数値目標・実績	項目名		単位		<table border="1"> <caption>数値目標・実績の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (ha)</th> <th>実績値 (ha)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>452</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>481.6</td> <td>545</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>511.2</td> <td>575</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>540.8</td> <td>579</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>570.4</td> <td>605</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>600</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (ha)	実績値 (ha)	計画当初	-	452	H28	481.6	545	H29	511.2	575	H30	540.8	579	R1	570.4	605	R2	600	-
		年度	目標値 (ha)	実績値 (ha)																							
		計画当初	-	452																							
		H28	481.6	545																							
H29	511.2	575																									
H30	540.8	579																									
R1	570.4	605																									
R2	600	-																									
利用権設定面積		ha (累計)																									
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)																									
452 (H26年実績)	600	605																									

P (計画)	主要施策(シンカ)	伸化	基本的方向	今ある価値の伸化																							
	取組事項	生活の向上	取組区分	第2期プランから継続																							
	現状(当初)と課題	平成27年度までの実証運行を経て、平日午前8時便～午後4時便を3台で運行し、令和元年6月からは午後5時便を増便している。今後も交通弱者への周知方法等の検討が必要である。																									
	取組の内容	① デマンド交通の利用促進																									
		継続してアンケートを実施し、町民の意向や、自車の利用状況を把握し、地域公共交通整備を図る。																									
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																				
	町民へのアンケートの実施		実施																								
	運行時間、便数、運賃等の検証		検証																								
町民への周知(周知方法の改善)		検証			実施																						
事業実施した場合、想定できる効果		交通手段を持たない町民の交通手段の確保。 町全域に公共交通サービスを行き渡らせることができる。																									
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																							
		全町民又は町内事業者		<ul style="list-style-type: none"> 午後5時便の運行を開始した。(全町民) 運行割引発行制度事業を創設した。(町内事業者) 紹介動画を作成、公表し、新規利用を促進した。 																							
C (評価)	進捗状況		C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している。																								
	自己評価	良かった点	<ul style="list-style-type: none"> 午後5時便を増設したことにより、利用者数を増加することができた。(参考) H30 14,956人 H31 14,994人 38人増 午後5時便を塾通いに使う子どもが増え、新しい利用者層の掘り起こしができた。 																								
		悪かった点	運行業者の業務実態に関する情報共有不足により、運行に関する苦情増及びお断り件数増となってしまった時期があった。																								
(改善) A	実施予定・変更点など		【R2年度の実施予定】 <ul style="list-style-type: none"> 利便性の向上を図るため、AIによる予約システムの導入を目指す。予約システムの研究を重ね、運行業者へ導入へ向けたプレゼンを実施する。 かみたん号の認知度をあげるため、さらなる周知の方策等を検討する。 1市2町の広域連携バスの運行と絡め、効果的にかみたん号を利用できるよう周知を図る。 																								
P / C	数値目標・実績	項目名	単位		<table border="1"> <caption>利用者数(平均)の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>26.9</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>23</td> <td>18.58</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>24</td> <td>19.1</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>25</td> <td>20.4</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>26</td> <td>20.8</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>27.5</td> <td>20.8</td> </tr> </tbody> </table>		年度	目標	実績	計画当初	-	26.9	H28	23	18.58	H29	24	19.1	H30	25	20.4	R1	26	20.8	R2	27.5	20.8
		年度	目標	実績																							
		計画当初	-	26.9																							
		H28	23	18.58																							
H29	24	19.1																									
H30	25	20.4																									
R1	26	20.8																									
R2	27.5	20.8																									
平日3台運行 1日1台当たりの利用者数	(平均) 人/1台・日																										
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)																									
26.9 (平成26年度 実績2台運 行)	27.5	20.8																									

P (計画)	主要施策(シナク)	伸化	基本的方向	今ある価値の伸化																							
	取組事項	生活の向上	取組区分		新規																						
	現状(当初)と課題	町民への周知は広報、パンフレットの全戸配布、各種健康運動教室等で行っているが、参加率が低い状況である。町民が、自ら取り組む意欲が持てる事業内容に見直す必要がある。																									
	取組の内容	② 健康マイレージ事業の参加促進																									
		周知方法を検討し、町民への効果的な周知の実施。他市町の実施状況や平成27年度参加者のアンケート結果等を基に、事業内容や参加者特典の見直しを行う。																									
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																				
	町民への周知		実施																								
	周知方法の検討		実施																								
	事業内容、参加者特典の見直し		実施																								
	事業実施した場合、想定できる効果		町民が健康づくりの習慣を身に付け定着させることにより、生活習慣病発症の予防、改善が図れる。																								
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)	取組(何を)																								
		事業内容の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイント加算項目に1市2町が開催する運動・健康に関するイベントも対象とした。 ・おやこマイレージの参加記念品を一部見直した。 																								
C (評価)	進捗状況		C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している。																								
	自己評価	良かった点	<p>参加者は昨年度に比べて微減している。 おやこマイレージは昨年に比べ増加傾向にあるが、参加者総数を底上げするだけの数は確保できていない。複数回参加者が8割以上となっており、初回参加者が16.8%と少ない(健康福祉課調べ)。「運動のきっかけづくり」という事業の性質上、初めて参加する者の人数を増やす仕掛けが必要。 おやこマイレージが増加傾向にあるのは参加記念品の魅力向上によるものとみられる。今年度も継続し、経過を観察したい。</p>																								
		悪かった点	<p>ターゲット世代の行動変容を促すだけの周知・PRができていない。 マイレージを達成した後の特典についても魅力の向上を図り、参加者を増やす必要がある。本事業は運動習慣のきっかけづくり、ひいては自立を目的とするものであるが、町民全体の健康を大局的にみると、きっかけづくりという役割だけでなく、継続することについても支援する必要もあるか。</p>																								
A (改善)	実施予定・変更点など		<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度についてはチャレンジシートを一新し、インパクトがあり、分かりやすいものとした。 ・おやこマイレージ参加記念品の図書券については継続。 ・スポーツ庁が推進するFUN+WALKプロジェクトの一環で生まれた、万歩計の役割を果たすFUN+WALKアプリがあり、県と同様、令和元年度から上三川町も取り組みを始めた。上三川町のゆるキャラ「かみたん」が選べ、キャラの変化を楽しむことができたり、ポイントを貯めると、上三川町のブランド品が抽選で当たったりときっかけづくりの入口を増やしているだけでなく、マイレージチャレンジシートと紐づけ、マイレージのポイントも加算できるようにした。 																								
	P / C	数値目標・実績		項目名	単位	1000																					
		健康マイレージの参加者数	人	800																							
計画策定時 現況値		目標値 (R2)	実績値 (R1)		600																						
—		900 (平成29年度)	552		400																						
<table border="1"> <caption>健康マイレージ参加者数実績</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>900</td> <td>449</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>900</td> <td>589</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>900</td> <td>560</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>900</td> <td>552</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>900</td> <td>552</td> </tr> </tbody> </table>							年度	目標	実績	計画当初	0	0	H28	900	449	H29	900	589	H30	900	560	R1	900	552	R2	900	552
年度	目標	実績																									
計画当初	0	0																									
H28	900	449																									
H29	900	589																									
H30	900	560																									
R1	900	552																									
R2	900	552																									

P (計画)	主要施策(シカ)		深化	基本的方向		町民・地域との協働																						
	取組事項		町民活動・ボランティアの育成支援		取組区分		新規																					
	現状(当初)と課題		少子高齢化がすすみ、地域における福祉のニーズは増大かつ多様化している。このニーズに対応するためには、行政サービスだけでは限界があり、ボランティアによる住民間の助け合いが必要となる。																									
	取組の内容		① ボランティアセンターの設置 ボランティア活動の推進を図るため、相談・登録・紹介・情報提供などボランティア活動をコーディネートするボランティアセンターを、町社会福祉協議会内に設置する。町は、設置に係る運営費用や制度の周知等についての支援を行う。																									
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																					
	ボランティアセンターの設置		実施																									
	制度の周知		実施																									
	事業実施した場合、想定できる効果		ボランティアセンターの設置により、ボランティア活動が活発化し、行政サービスでは対応できない地域課題に対し解決ケースが増加する。																									
D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																							
			① ボランティア登録者 ② 広報誌、ホームページ、各種講座・会議時 ③ 依頼者 ④ ボランティア活動に興味がある人		① ボランティア依頼があった時に登録ボランティアの名簿をもとにマッチング ② 左記媒体を利用してPR ③ 支援者宅へ直接訪問してPR ④ チラシを作成し、ボランティアに興味がある人やボランティアに来て欲しいと思っている人に対し情報発信																							
C (評価)	進捗状況		B: 目標達成に向けて順調に進捗している。																									
	自己評価	良かった点	今年度からくろねえポイントを開始したことで、ボランティアセンターのPR及びボランティア活動の活性化に繋がった。 ① R1実績 ・くろねえポイント…相談82件、依頼16件、マッチング15件、活動回数55回、延べ活動者数84人 ・くろねえポイント以外…相談135件、依頼56件、マッチング54件、活動回数268回、延べ活動者数305人 ② 居場所サポートボランティア実績 開催回数82回、延べ活動者数554人																									
		悪かった点	ボランティアの依頼が集中した際に、マッチングに時間がかかってしまうことがあった。																									
(改善) A	実施予定・変更点など		・作業系ボランティア(ゴミ出し、草刈り等)については、ホームページに募集中のボランティアとして掲載し、希望者へ依頼する方式を採用し、マッチングにかかる時間を少しでも減らしていく。																									
P/C	数値目標・実績		項目名	単位		<table border="1"> <caption>ボランティア充足率の推移</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標 (%)</th> <th>実績 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>99.0</td> <td>91.0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>99.0</td> <td>91.2</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>99.0</td> <td>91.8</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>99.0</td> <td>98.4</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>99.0</td> <td>95.8</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>99.0</td> <td>99.0</td> </tr> </tbody> </table>		時期	目標 (%)	実績 (%)	計画当初	99.0	91.0	H28	99.0	91.2	H29	99.0	91.8	H30	99.0	98.4	R1	99.0	95.8	R2	99.0	99.0
			時期	目標 (%)	実績 (%)																							
			計画当初	99.0	91.0																							
			H28	99.0	91.2																							
H29	99.0	91.8																										
H30	99.0	98.4																										
R1	99.0	95.8																										
R2	99.0	99.0																										
ボランティア充足率	%																											
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)																										
0.0	99.0	95.8																										

P (計画)	主要施策(シカ)		深化	基本的方向		町民・地域との協働		
	取組事項		地域防災力の強化		取組区分		新規	
	現状(当初)と課題		本町地域防災計画で規定している自主防災組織の設置に関して、現状は未設置である。					
	取組の内容		① 自主防災組織の設立推進					
			自治会に自主防災組織の設立を推進する。					
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	自主防災組織設立のための自治会説明会		実施					
事業実施した場合、想定できる効果		災害時に避難実施や救出救護による被害の軽減が図れる。						
D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)		取組(何を)			
			自主防災組織未設立自治会		自主防災組織設立に向けた説明会(27自治会)を実施			
C (評価)	進捗状況		D:遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい。					
	自己評価	良かった点	R1. 8. 4に自主防災組織の未設立自治会向けに説明会を実施した。令和元年度中の設立には至らなかったが、令和2年度早々の2自治会での設立につながった。					
		悪かった点	浸水想定区域外の自治会については、必要性は理解していただいているが、実際に設立には至っていない。					
A (改善)	実施予定・変更点など		自主防災組織の未設立自治会には、個別での説明会を開催するなど、設立に向けた呼びかけを強化する。また、活動補助金等に関するマニュアルを分かりやすくリニューアルし、理解の促進を図る。 設立済みの自治会については、防災訓練などの助言を行うとともに、防災活動・防災資機材の整備への支援を行う。					
P / C	数値目標・実績		項目名	単位				
			自主防災組織数	組織				
			計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)			
			0	45	23			

P (計画)	主要施策(シンカ)	深化	基本的方向	町民・地域との協働																							
	取組事項	住民参画の推進		取組区分	第2期プランから継続																						
	現状(当初)と課題	平成27年度までに、全7小学校区のうち、6地区がコミュニティを組織化している。残る1地区(上三川小学校区)の組織化と、石田地区コミュニティを含む北小学校区コミュニティの構成区域の見直しが必要。																									
	取組の内容	① コミュニティ活動の推進																									
		通常の業務の中から機会を見つけ、組織化等の働きかけを行う。 本郷コミュニティとの話し合いを持ちながら、コミュニティセンター整備に向けた検討を行う。																									
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																				
	上三川小地区における推進協議会設立に向けた推進		働きかけ																								
	北小地区における推進協議会設立に向けて、石田地区コミュニティを含めた構成区域の見直し		働きかけ																								
	本郷コミュニティセンターの整備		検討																								
	事業実施した場合、想定できる効果		地域コミュニティ活動の活性化が図れる。																								
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)	取組(何を)																								
		本郷コミュニティ推進協議会	組織改変に伴い、推進協議会や一部地域住民から、センター整備にあたってのこれまでの経緯や意見等を聞くことができた。 上記を踏まえ、町関連部署と連携の上、センター整備にあたっての情報共有を図ることができた。																								
C (評価)	進捗状況		D:遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい。																								
	自己評価	良かった点	本郷コミュニティセンター整備に関しては、地元における現状等を聞くことができ、センター整備における関連部署との打ち合わせ等の機会を設けることができた。																								
		悪かった点	本郷コミュニティセンター整備に関しては、地元合意を必須としているが、その後の進展を得ることができなかった。また、組織の見直し・未組織地域の組織化に関しては、地元コミュニティへ説明する機会を持つことができなかった。																								
(改善) A	実施予定・変更点など		【R2年度の実施予定】 ・センター整備、組織設立及び構成区域の見直しでは、コミュニティ組織のあり方や必要性を周知する方策等を引き続き検討する。 ・本郷コミュニティセンター整備は、地元協議会の意見を聴きながら、整備に向けた進展を得ることができるよう具体的な取組みを検討し、可能な限り実施していく。 ・構成区域の見直しや未組織地域の組織化は、地元地区社協の会議等において各種働きかけを行う。																								
P / C	数値目標・実績		項目名	単位	<table border="1"> <caption>数値目標・実績</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>		年度	目標	実績	計画当初	6	6	H28	6	6	H29	6	6	H30	6	6	R1	6	6	R2	7	6
			年度	目標			実績																				
			計画当初	6			6																				
			H28	6			6																				
H29	6	6																									
H30	6	6																									
R1	6	6																									
R2	7	6																									
コミュニティ推進協議会組織数及び構成区域の見直しを行う。 コミュニティ未組織地域の組織化を促進する。	組織																										
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)																									
6	7 (構成区域の見直し)	6																									

P (計画)	主要施策(シカ)	深化	基本的方向			町民・地域との協働	
	取組事項	住民参画の推進			取組区分	新規	
	現状(当初)と課題	モニタリングで評価指標の一つになっている利用者アンケートの回収数が減少しており、いきいきプラザに関する意見が一利用者からの声なのか、それとも利用者全体からの声なのかが把握しにくくなっている。 平成20年度(518件)→平成26年度(131件)					
	取組の内容	② いきいきプラザ利用者提案制度の推進					
		いきいきプラザのアンケート内に利用者提案の枠を設け、そこで挙げた意見(明らかに実現できないものを除く)について運営委員会で審査を行い、実現したが良いと判断されたものを実施していく。					
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	利用者提案枠を設けたアンケートの実施		実施				
	いきいきプラザ運営委員会での審査			実施			
	審査結果の採用			実施			
	審査結果の掲示			実施			
事業実施した場合、想定できる効果		利用者アンケートの回収数の増加。 利用者参画型運営の実現。					
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)		取組(何を)			
		①上三川いきいきプラザ利用者 ②いきいきプラザ運営委員会の委員		①利用者提案枠を設けたアンケートを実施した。 ②平成30年度のアンケート結果を開示し、審査を行った。			
C (評価)	進捗状況		C:やや遅れているが、概ね順調に進捗している。				
	自己評価	良かった点	昨年度のアンケート回収数は、817枚(強化週間で回収したアンケート700枚、常設のアンケート117枚)であり多くの利用者から御意見をいただくことができた。				
		悪かった点	・アンケートの利用者提案で検討可能なものとしてピックアップしたが、屋外の時計設置や、Wi-fi環境の整備、貸館部分についてHPからの予約を可能にしてほしい、手話通訳者をおいてほしい、など財政的な負担がかかる提案が多くあった。また、その他の提案については検討する中で代替手段やどうしても実現不可なものがあり、採用した提案は令和元年度は0件であった(また、利用者提案の枠ではないが、アンケートからご意見いただいた件について町、指定管理者共に改善した事例は数例ある)。				
A (改善)	実施予定・変更点など		<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの回収強化週間は、利用者からの生のご意見を多くいただけることから今後も実施していく。 ・アンケート結果は、いきいきプラザ館内に掲示し、利用者にフィードバックを行う。 ・アンケートの問い方を変更する。 				
P / C	数値目標・実績	項目名		単位			
		利用者提案による運営方法の採用		件			
		計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)			
		-	4	0			

P (計画)	主要施策(シムカ)		深化	基本的方向	町民・地域との協働																							
	取組事項		住民参画の推進		取組区分	第2期プランから継続																						
	現状(当初)と課題		審議委員会等への女性委員の登用率は、平成26年度実績で33.7%の達成状況である。今後も達成状況を踏まえ、更なる女性の積極的な登用を目指す。																									
	取組の内容		③ 女性委員登用率の向上の推進 各課に対し積極的に女性を登用するよう促す。																									
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																					
	審議委員会等への女性委員の登用		実施																									
	事業実施した場合、想定できる効果		審議委員会等への女性委員の積極的な登用が推進されれば、町の政策や方針決定過程に多様な視点、新たな発想を取り入れることとなり、町民の意見を的確に反映できるとともに町の発展につながる。																									
D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																							
			各課		審議会委員等への女性の登用を呼びかけた。																							
C (評価)	進捗状況		A:目標以上に進んでいる。																									
	自己評価	良かった点	目標を1.0ポイント上回り、女性の活躍する場が広がっている。																									
		悪かった点	各団体の代表者が充て職で委員になっているものが多く、下の役職の者からの選出に繋がらなかった。																									
(改善)	実施予定・変更点など		引き続き女性委員の登用や、各委員会において男女双方の意見を取り入れられるように配慮することを所管課に働きかけていく。																									
P / C	数値目標・実績		項目名	単位		<table border="1"> <caption>女性委員の積極的な登用率の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標 (%)</th> <th>実績 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>33.7</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>35.0</td> <td>37.7</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>35.0</td> <td>34.8</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>35.0</td> <td>31.7</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>35.0</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>35.0</td> <td>35.0</td> </tr> </tbody> </table>		年度	目標 (%)	実績 (%)	計画当初	-	33.7	H28	35.0	37.7	H29	35.0	34.8	H30	35.0	31.7	R1	35.0	36	R2	35.0	35.0
	年度	目標 (%)	実績 (%)																									
	計画当初	-	33.7																									
	H28	35.0	37.7																									
H29	35.0	34.8																										
H30	35.0	31.7																										
R1	35.0	36																										
R2	35.0	35.0																										
		審議委員会等への女性の積極的な登用	女性委員数/総委員数																									
		計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)																								
		33.7% 【315人中106人】 (平成26年度実績)	35.0	36.0																								

P (計画)	削除	策(シナク)	深化	基本的方向		官民協働		
	事項	民間活力の導入		取組区分		第2期プランから継続		
	現状(当初)と課題	施設の老朽化による修繕費の増加が懸念されるほか、現在の施設では0歳児からの保育ができない状況である。また、国・県からの補助等が見込める民間に比べ公立保育所の費用は自主財源のため、町の財政的負担が大きい。						
	取組の内容	② 大山保育所の民営化						
		平成30年4月の民営化に向け、法人を募集し、法人が新設の保育所を整備する。施設については今後の保育需要を見込んだ定員と0歳児からの受入や特別保育の実施を条件に整備を行う。						
	数値目標・実施期限等	項目名	単位	当初(平成28年度)		目標		
		大山保育所の民営化	—	—		平成30年4月から民営化		
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	法人等の募集及び決定		実施					
	施設整備及び民営化移行準備			実施				
大山保育所の民営化				民 営 化				
事業実施した場合、想定できる効果	民営化により、保育所運営費等の国庫負担金等の導入等による経費の削減と人件費の削減が可能となる。 また、0歳児からの保育など多様な特別保育の実施により保育サービスの向上が図れる。							

P (計画)	主要施策(シカ)		深化	基本的方向		自治体との連携																							
	取組事項		自治体間の交流推進		取組区分		新規																						
	現状(当初)と課題		○平成26年2月に茨城県大洗町との友好都市協定を締結 ○栃木県県央都市圏首長懇談会、宇都宮地区広域連携研究会での情報交換の実施、施設の広域利用。 現在は、企画部門、商工部門、生涯学習部門など1部門での連携であるが、今後も様々な面での交流、連携を視野に入れる必要がある。																										
	取組の内容		① 地域間交流活動の推進 友好都市協定を締結している茨城県大洗町をはじめ、他自治体との地域間において、教育・文化・スポーツ・災害対策など様々な面での活動や施設利用、情報の交換による交流・連携を推進する。																										
	取組スケジュール			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																					
	大洗町との交流事業			実施																									
	他事業での交流・連携の検討			実施																									
	事業実施した場合、想定できる効果		他自治体等との交流・連携を通じて、本町の活性化や人材育成につながる。																										
	D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																							
				①文化祭での交流(大洗町) ②お祭りなどでの交流(大洗町) ③広域連携事業(下野市・壬生町) ④野木町職員との合同研修 ⑤かみたんの出演(近隣市町) ⑥町村会人材育成セミナー		①相互の文化祭に参加 54人 ②あんこうまつりで交流 13人 ③地方創生勉強会 33人 ④大洗町への地方創生合同研修 50人 ⑤町外のイベント等に出演 10回 ⑥セミナー受講 30人																							
C (評価)	進捗状況		B: 目標達成に向けて順調に進捗している。																										
	自己評価	良かった点	台風の影響により消防団通常点検等による自治体間交流の機会が失われたが、友好都市大洗町との交流や各種勉強会・セミナーを通して他の自治体職員と交流を深めることができた。																										
		悪かった点	施策に直接結びつくような交流ができれば、さらに高い効果が見込める。																										
(改善) A	実施予定・変更点など		複数市町が協力することで相乗効果が見込める事業等については、宇都宮市を中心とした県央都市圏首長懇談会、下野市・壬生町との1市2町連携会議の活用を図る等、地方創生の観点からも積極的に連携を検討していく。																										
P / C	数値目標・実績		項目名	単位		<table border="1"> <caption>地域間交流事業参加者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>110</td> <td>119</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>120</td> <td>198</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>130</td> <td>269</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>280</td> <td>190</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>300</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			年度	目標	実績	計画当初	-	100	H28	110	119	H29	120	198	H30	130	269	R1	280	190	R2	300	-
			年度	目標	実績																								
			計画当初	-	100																								
			H28	110	119																								
H29	120	198																											
H30	130	269																											
R1	280	190																											
R2	300	-																											
地域間交流事業参加者数	人																												
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (R1)																											
100 (平成26年実績)	300	190																											